

郡科学作品展・社会科課題追究作品展特集号

9月7日（土）・9月8日（日）に「令和6年度揖斐郡科学作品展」・「揖斐郡社会科課題追究作品展」を池田町中央公民館で実施しました。

作品展には夏休みの間に児童・生徒のみなさんが熱心に取り組んだ素晴らしい作品が各校から出品され、作品展では約600名以上の方に参観していただきました。各作品展の出品状況・入賞者は以下の通りです。

【1】令和6年度 揖斐郡科学作品展

(1) 取り組み状況	郡での 総取り組み数	郡作品展 出品数	入賞数			
			金賞	銀賞	入選	県作品展出品
科学作品展	395点	70点	10点	16点	44点	4点

(2) 令和6年度 郡科学作品展 金賞・銀賞の入賞者 (敬称略)

賞	テーマ	学校	学年	氏名
研究の部				
金賞	めざせ！ せんこうはなび めいじん	小島小	1	かわい あおい
金賞	何がうくかな、しずむかな？～うけ！ぼくのたけふみ号～	春日小	2	小椋 たけふみ
金賞	めざせ！たまごやき5つ星シェフ ～さめてもおいしい ふわふわレシピのひみつ～	北小	3	見屋井 花
金賞	お花はどんな飲み物が好き！？	温知小	4	森 紘
金賞	ふりこのひみつをさがろう！～ゆれたり、回転したりするおもちゃを作ろう～	春日小	5	小椋 風花
金賞	どんどんふくらむお米パンの可能性 ～おいしい！ヘルシー！アレルギーなし！～	北小	6	見屋井 陸
金賞	手作りで正確な温度計は作れるのか	池田中	1	武仲 広翔
銀賞	だんごむし なかよし 大さくせん	温知小	1	たかぎ りほ
銀賞	スライムのじしゃく早食いコンテスト	大和小	2	五十川 はな
銀賞	めざせ おならマスター	小島小	2	小椋 佑太郎
銀賞	まい日アイス 2 ～くだものをこおらせるとどうなるの～	八幡小	2	林 花夏
銀賞	おいしいおにぎり大さくせん	池田小	2	いとう ももな
銀賞	紙のふしぎ	池田小	3	服部 一太
銀賞	太陽とかげのかんそく	養基小	3	坪井 馨子
銀賞	プランクトン ハンター	北方小	4	林 咲衣
銀賞	最強！！ろかそう置を作ろう	清水小	4	加勢 悠真
銀賞	きれいに落ちるパラシュート	西小	5	久保田 悠二郎
銀賞	日傘で涼しくすごすには	東小	6	松浦 陽太
銀賞	生み出そう 発電の実験	八幡小	6	竹内 大智
科学工作の部				
金賞	水力発電	揖斐小	3	坪井 悠紘
銀賞	地球を守りたい！！	揖斐小	5	今西 康瑛
銀賞	ぼくの大好きなほ虫類	揖斐小	5	佐木 誠仁
銀賞	注射器 ロボット ハンド	北方小	5	岩間 栞
銀賞	モビールを作ってバランスにちょう戦しよう	南小	6	大野 結葉
採集(標本)の部				
金賞	小さなセミのぬけがら大きくしてみたよ！	西小	2	丹羽 悠晴
金賞	ねお川の石の研究	東小	4	小里 葉月

【2】令和6年度 揖斐郡社会科課題追究作品展

(1) 取り組み状況	郡での 総取り組み数	郡作品展 出品数	入賞数			
			金賞	銀賞	入選	県作品展出品
社会科課題追究作品展	202点	51点	8点	8点	35点	9点

(2) 令和6年度 郡社会科課題追究作品展

金賞・銀賞の入賞者

(敬称略)

賞	テーマ	学校	学年	氏名
金賞	ぼくのはたらく車図かん パート2	春日小	2	小原 やすふみ
金賞	乙原歌舞伎について調べよう ～岐阜県の地歌舞伎を通して～	北方小	4	高橋 穂香
金賞	大野の古墳に oh no! ～もっと知ってほしい い大なる大野町の古墳～	南小	4	青木 萌咲
金賞	「自分の命を守ろう！」小学校と通学路の防犯対 さく～私にできることを考えよう～	南小	5	青木 桜和
金賞	食品ロス問題から未来を考える	池田小	5	竹中 綸葉
金賞	自分のルーツを探る	南小	6	堀向 花乃
金賞	Back to the Kofun ～奈良の古墳から岐阜の古墳へ～	揖斐川中	2	所 勇杜
金賞	戦国時代は何を保存食にしていたの??	池田中	2	北野 心規
銀賞	めいてつ谷ぐみせんのけんきゅう	北小	2	桑原 蒼士
銀賞	地しんについてしらべよう	八幡小	2	竹中 慎之介
銀賞	みんながいきたくなるパンフレット in 佐渡ヶ島	池田小	3	戸田 琳太郎
銀賞	和紙の研究	小島小	4	藤内 結菜
銀賞	ランドセルの研究	北方小	6	春口 野衣
銀賞	防災 命を守るためには	養基小	6	田中 晴基
銀賞	「障がい者支援施設と福祉用具について」	大野中	2	北林 凌空
銀賞	我が家のWorld MAP～調査せよ！我が家の MADE IN ○○～	大野中	1	楠 祥太

【3】令和6年度 揖斐郡科学&社会科課題追究作品展入場者数

作品展では多くの方に参観していただき、ありがとうございました。

総参観者数 607人		(昨年度 (R5) : 569人)
第1日: 9月7日 (土) 301人	第2日: 9月8日 (日) 306人	

【4】令和6年度 揖斐郡科学&社会科課題追究作品展の様子



社会科課題追究作品展の様子



科学作品展 (研究の部) の様子



科学作品展 (科学工作・採集) の様子



【5】令和6年度 揖斐郡科学&社会科課題追究作品展の講評

科学作品展および社会科課題追究作品展を審査していただいた郡の役員の先生方からご講評をいただきました。作品づくりを振り返ったり、次年度への取組の視点にするとともに、科学的なものの見方や社会的なものの考え方を育てる視点にご活用ください。



(1) 令和6年度 郡科学作品展の講評

- 1・2年の作品は心のこもった素敵な作品ばかりでした。日常生活の不思議から様々な研究がされていて素晴らしいです。特にだれがやっても「なるほど!」、「たしかに!」と思えるように実験のデータをまとめたり、写真に残したりしているものばかりで根拠が明らかになっていました。これからはわくわく・ドキドキする気持ちをもって科学のすごさ、面白さを追究していただきたいです。
- 3・4年では身の回りの疑問をテーマにしている作品が多くあり、それによって研究心をもって取り組むことができていました。反面、〇〇をやってみるという実験を目的としている作品もありました。課題を追究していく内容にしていけるとさらによいと思いました。
- 実験方法をそれぞれ工夫しており、結果の表し方も数値だけでなく、表やグラフにしているなどよく工夫してありました。また写真を多く使用している作品があり、撮影の技術も上達しているように感じました。言葉ではよく伝わらないような内容はやはり写真が有効だと思います。
- 考察は個人差があり、1つ1つ丁寧に書けている子も多くいました。まとめや振り返りなどについては最後までじっくりできることを期待したいです。
- 自分の調べたことを明確にして調べている内容が多くあったのがよかったです。数値を表に表したり、グラフを書いたりして見やすくまとめてあるのがよかったです。
- 調べていく中でさらに気になったことや疑問に思ったことを調べるともっと良い作品になると思いました。
- 3・4年の作品では夏休みより前から取り組むなど長期間頑張っている作品もあって素晴らしかったです。
- どの作品を見ても、その造像力と探求心に感心させられます。子どもたちは自分の興味をもったテーマを深く掘り下げ、実験や観察を通じて発見を得ています。特にシンプルな素材や日常の疑問から始まったアイデアが科学的に発展している点が印象的でした。
- 児童生徒の好奇心や発想の柔軟さは大人にはない新鮮さがあり、未来の科学者たちへの可能性を感じさせられました。
- どの作品も工夫がされており、結果が思い通りにならなくても、学びのプロセスがしっかりと記録されていることから、科学的思考の基礎が身についていると感じました。
- 全体的に自分の研究の動機をしっかりと持っている作品が多く、それが研究内容にも表現されていました。中学生の部では学校で学んだことから疑問を見出し、自分なりの研究がなされていました。今後は調べる際の基準や条件をそろえたり、研究後の展望を示したりして、さらに素敵な研究にしていってほしいと思います。
- 科学作品では1つ1つの作品から興味をもって取り組んだことが伝わってきたので、今後もその思いを継続して行って欲しいと思います。
- どの学年も学校での学びからだけでなく、日常の不思議に思ったことから科学的にまとめていたと思います。夏休みの間にしかできない長期間に及ぶ研究や気になったことをいろいろなところに行き集めたり、調べたりと、どの作品もとても見ていて興味がわく作品ばかりでした。
- 日常の疑問を科学的に追究しようとする作品が多く良かったです。また限られた時間の中で努力している作品が多く見られました。
- 中学生の部では、試行回数を多くしたり、対照実験として条件を整理し、より深く追究できる内容だと一層よいと思います。

(2) 令和6年度 郡社会科課題追究作品展の講評

- 課題追究という名称の作品展であるため子どもなりに努力していると感じる作品が多かったです。作品展出品で評価されることが励みとなり、テーマについてもやってみたい、調べてみたいことなど興味関心に基づいて設定されていました。
- 反面調べたことがまとめられているところと終わってしまっていると感じられるものもあったので、まとめ方や調べ方を工夫できるとよいと思います。作品展がこれらのことを次年度につなぐ大きな役割を果たすので、さらに多くの児童生徒や保護者の方に参観していただけるとよいです。
- 学校での学習や地域活動をきっかけに自分自身が興味関心を持ち、粘り強く取り組んだ作品が多く見られ、すばらしかったです。

- 調べたいこと、疑問を明らかにし、地図・グラフはもちろんインタビュー活動や体験活動をまとめたものも多くあり、読み応えがありました。さらに今年は地域に根差したものの、学校での学習や体験活動からさらに主体的に課題追究した作品が多くあり、大変うれしく思いました。
- 今後は様々な見方、考え方を生かし、自分のまとめ、考えにつながるよう調べ方やまとめ方をさらに充実させていくとよいと思います。
- 年々出品数が減少する中でも社会科（社会的事象）に興味関心をもって作品作りに取り組む中学生がいることを大変うれしく思います。
- 内容や量にこだわらず、まずは興味をもってノードを開くことから始めることで出品数が増えることを期待したいです。
- 事象を多面的にとらえ、様々な面に着目して一つ一つを丁寧に調べ、写真や資料を添えてまとめられていました。
- さらに作品の質を高めるために、一つ一つの事象を多面的なアプローチから深く掘り下げる追究ができるとよいと感じます。このことを明らかにしたいという明確な目的意識と方向性が出てくると一層よいと思いました。
- 低学年では興味を大切に実際に働く人にインタビューをするなど、生活科で培った力を発揮した作品があり良かったです。
- 課題追究の熱意を感じる作品が多く、低学年では自ら足を運んで知りたいことを追究したり、新たに生まれた疑問を解決しようとした様子が作品に表現されていました。
- インターネットで検索するだけではたどりつけない答えに追究を通して至る背景には直に関わる人の思いに触れたり、自分の目でみて確かめたりしたことがあるのだと思います。金賞の作品ではとりわけ課題解決のための見通しが明確で、複数の視点から事象についてとらえ、分析しようとする姿が感じられました。
- 社会科らしく現場で感じるものを大切にして、ふだんの生活で出会わない人から学ぼうとする姿、その気持ちや情熱を他の人に伝えようとする作品があり、素晴らしかったです。
- 4年生の中には夏休み前からテーマを決めて取り組んでいる作品があり、とても内容がある作品が多くありました。3・4年の頃は内容というより、自分が興味をもったものを楽しんで調べたり、まとめたりすることが大切だと思います。そのためには自分が取り組みたいと思うテーマや題材に出会うことが大切だと思います。（今年だとオリンピックとか新紙幣など）学校の授業等であるべく多くのものに合わせることが興味をもつ第一歩になると感じました。
- 5・6年ではどの作品もテーマにいたる動機に面白さを感じました。どのような思いから研究を進めようと思ったかがよく伝わってきました。金賞・銀賞に選ばれた作品はインターネットで調べるだけでなく、現地に赴いて「見る」、「聞く」をしているのが素敵でした。ぜひ現地に行ってみたりして分かったこと、感じたことをまとめるとよいと思いました。またどの作品も「調べたい」や「好き」があふれる素敵な作品でした。
- 5・6年ではテーマが面白く、そこから追究したいという意欲をたくさん見せてもらうことができました。特に金賞や銀賞の作品では、まとめを最後まで書き切り、それに満足せず、次の目標をもち、さらに向上心を書いている児童には、社会科教師としてとてもうれしく思いました。
- 出品された作品すべてが丁寧に作られ、児童の学びを感じられるものになっていました。
- 中学校の部ではどの作品も自分の好きなもの、この夏を通して好きになったもの、興味が出たものについて全力で調べていて、胸が熱くなったり、微笑んでしまったり、とても楽しく見せてもらいました。それとともに保護者の方の多大なサポートがあってこそその大作であるなども感じ、温かい気持ちになりました。
- どの学年も自分で見つけた課題をどう解決するか、どうやったら解決できるかを考えた作品ばかりで興味が学びにつながるものが本当にすばらしかったです。今年度の作品のよさが多くの児童生徒に伝わり、来年の作品につながっていくことを願っています。
- さらによりよい作品にするためには「取材力」と「多面的な視点」が大切だと思います。取材力とはその名の通り、どれだけ生の声が聞けるか、本物を見れるかということです。それによって自分が感じること、見つけられるものは大きく違います。多面的な視点では、例えば防災のことを調べるにあたって、自分はどうするかだけでなく、家族は、企業は、県は、世界はなど様々な視点から調べることができます。それらをもとに自分はどうするかを考えると社会科として深みのある作品になると思います。
- 各作品、自分が追究したいテーマについて実際に現地へ行き、肌で感じたり、実際に作って食べてみると、工夫した調べ学習を行うことができていました。また揖斐郡という土地柄から古墳についての作品が多くあることも、地域への関心の高さが現れていると感じます。
- 調べるきっかけやまとめ方の書き方を工夫するなどして、追究した結果を大切にできるとさらにより良い作品になると感じました。

